

キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum kohli* Sickmann

【選定理由】

本種は愛知県内では広く分布し、個体数も多く、家屋の塀や屋根の軒下などに泥の塊の巣や、ヤブガラシなどに訪花する個体もよく見られた。しかし、ここ数年では確認が難しくなり、近隣の他県でも個体数の減少が顕著である。

【形態】

体長 20～28mm。体は黒色で、触角柄節下面、前胸背面の 2 紋、肩板、後胸背板の横斑、中胸側板上方の 1 紋、脚の斑紋および腹柄は黄色で細く長い。



♀. 江南市草井, 2006 年 8 月 16 日, 大草伸治 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

記録として残されているものは一宮市、江南市、名古屋市、豊田市などがあるが、愛知県全域に広く分布していたと考えられる。

【国内の分布】

本州、四国、九州、対馬、琉球諸島。

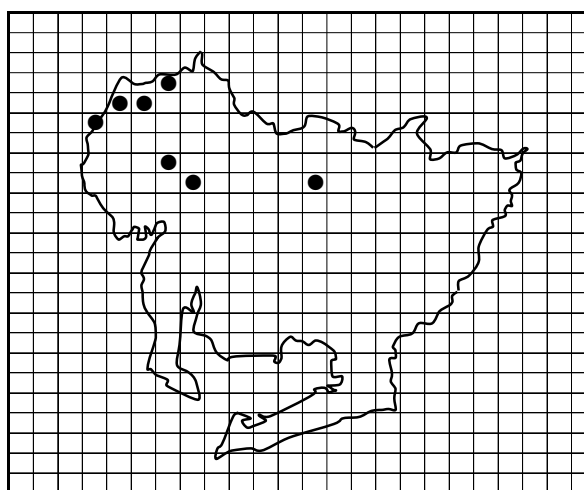
【世界の分布】

日本、中国、ベトナム。多くの別亜種が有りユーラシア大陸に広く分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

人家や社寺の壁などに泥で筒状の巣を複数作り、幼虫の餌となるナカムラオニグモやハナグモなどのクモ類を詰め、全体を半球形に塗り固める。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

同様な生態を持つ大型のアメリカジガバチ *Sceliphron caementarium* (Drury) の移入により急激に減少している。最近になって移入種の影響はやや少なくなったが、セアカゴケグモの駆除などによって他種を含む餌となるクモ類が減少し、個体数が増加しない。

【保全上の留意点】

公園などの清掃作業時に壁面などについた泥の巣を除去されることがある。また、営巣用の泥を得ることも難しくなっている。セアカゴケグモを主とする害虫駆除作業による影響も大きいと考えられる。人為環境と自然環境との良好な融和が必要である。

(大草伸治)